



今号の巻頭言は、過日の西来寺報恩講において読み上げた「表白（ひょうびやく）」を載せたい。表白とは、その法要の位置と、その法要を執行する意味が語られるものである。

数十年に一度の大法要も、一年に一度の報恩講も、毎朝の御内仏（御仏壇）への礼拝が起点であり基点である。お勤め（俗に言うとお経を読むこと）ができなくとも、せめて十秒、たった十秒で良い。阿弥陀様の前に座り「南無阿弥陀仏」と声にしてほしい。（住職代務者 釋大信）

起点・基点



西来寺報

令和七年 冬
第五十三号

大塚山 西来寺

令和七年 報恩講

表 白

敬つて、大慈大悲の阿弥陀如来の御尊前、ならびに、宗祖親鸞聖人の御影前にて、申し上げます。

本日ここに、有縁参集の人びととともに、御尊前を莊厳し、御聖教を誦して、宗祖親鸞聖人が還浄されてから満七六三年、七六四回忌の報恩講を厳修いたします。当山が天台宗一乗寺として創建されてから千二百年余り、宗祖親鸞聖人との値遇を得て浄土真宗西来寺と改まり八百年弱、幾多の苦難をくぐり抜けて、今日まで念仏の道場としてありつづけてまいりました。念仏の道場、すなわち浄土真宗寺院の存在の意味は、ひとえに「浄土真宗」を内に深め外に広めることにあります。そもそも「浄

合掌

行事のご案内

十二月三十一日（水）

午後十二時 歳末昏時

午後十二時四十五分

除夜の鐘の打鐘



西来寺梵鐘は横須賀市内に残る最古の梵鐘で、横須賀市の指定重要文化財です。みなさんでついで、新しい年を迎えましょう。

一月一日（木）

午前十一時 修正会

修正会は元日に行われる法会で、その年の生活の目標を立て、心を新たに求道の道を進む決意をします。

是非、ご参加ください。

蓮を寄贈して いただきました！

一切善恵凡夫人
聞信如来弘誓願
仏言広大勝解者
是人名分陀利華

『正信偈』では、泥の中から咲く、清らかな仏の悟りの象徴として、蓮が登場します。「分陀利華（ふんだりけ）」は白い蓮のこと。煩惱にけがされない清らかさに喩えられます。

夏に西来寺では蓮の鉢をお迎えしました。お盆の時期にはみごとに花が咲き、参拝のみなさまの目を楽しませてくれました。

この蓮の育ての親、鈴木さんを訪ねました。葉山にあるお家



本堂前の鉢は、すべて
白い蓮が咲きました。



玄関前や中庭で咲いた蓮は、桃色でした。
品種名は来季にくわしく調べようと思います。



蓮の植え替え作業をしている
鈴木さんご夫妻の写真



蓮の育ての親
鈴木さん



高倉健さんのサインや
当時の撮影のようす

石井和江さんの 句集を作成中

毎月28日の同朋会でみなさんに俳句のご指導をしていただきました。俳人の石井和江さんの四季の句を収めた句集の発行を予定しています。どうぞお楽しみに！！

健康コラム

お家ヨガ15

ぐっすり寝たい！！

寒さで身体がこわばり、眠りが浅くなりやすい冬。冷えや



- ① 椅子に座り脚を広めに開きます。
- ② 息を吸いながら両手を持ち上げ、背中を伸ばします。
- ③ 息を吐きながら上半身を前に倒し、ものの上にお腹を乗せ、両手を足の横まで下ろします。
- ④ 頭の力を抜いて、ゆっくり3呼吸します。起き上がる時は背中を丸めながらゆっくりと。

西来寺の本堂でおこなわれていた月イチのお寺ヨガは、すこしお休みします。再開を楽しみに待ちましょう！！

西来寺 〒238-0051 横須賀市不入斗町 3-38 / TEL 046-822-1020 / ホームページ <https://sairaiji.com>



報告

令和七年

真宗大谷派

大塚山

西来寺

報恩講



西来寺のホームページでは、当日に撮影した勤行と講演の写真などがご覧いただけます。

令和7年10月28日（火）、日差しも暖かい穏やかな爽秋に恵まれ、本堂では用意していた補助の椅子も開会後間もなく満席になりました。



講題

仏教が好きっ!!

つゆのまるこ

露の団姫師

講師

《記念講演》

第1部 落語

まずは一席。・・・とその前にみんながつい声を出したくなるような古典の小話。本堂はさっそく「そう、そう!」「ちゅう、ちゅう!!」客席の合唱と笑いの波がおこります。

演目は「お血脈（おけちみゃく）」親鸞聖人にも縁のふかい長野県の善光寺のお話です。

“阿弥陀さんのチカラでお肌プルプル”なーんて、マルコさんの現代スパイスをふんだんに効かせながらの古典落語です。

第2部 法話

平等という言葉が好きです。

「すべての命が平等である。すべての命が大切である。」すべての命が平等? じゃあゴキブリは? 平等とは? 思い込みはせず、物事をありのままに見ましょう。ということ、仏教では「正見（しょうげん）」といいます。また、差別のことを「しゃべつ」と呼び、いわゆる「差別」のことをいいます。

現代語では差別と区別はまったく意味が違いますね。「区別」とはものごとそのものの違いを云います。一方「差別」とは、区別をもとに不当に低く取り扱うことをいいます。例えば、女性だけを一律に減点していた某医科大学の受験がニュースになりました。これは差別です。区別を悪いことに使うと差別になります。それは魂を傷つけることになります。区別をよいことに使うこと。これが仏教のすすめていることです。例えば、足の悪い人に声がけをして助けたとします。それによって、助けられた人にも助けた人にもその周りの人にも新しい世界が広がる可能性が生まれます。

私がどうしてもお寺を作りたかった理由

団姫さんは、高校生で鬱（うつ）になってしまったときのことと語ってくれました。

「今日は、死なない。と、仏さんに約束しながら、辛い日々をなんとかやり過ごしました。自死自傷は当事者にとっても、まわりにいる人たちにとっても非常に辛いものです。そういうみなさんに安心して話をしてもらえ場所を作りたいかった。だからお寺を作りました。」団姫さんの明るい笑顔には、とても強い信念の支えがあるからなのだと感じました。



西来寺のホームページでは、当日に撮影した勤行と講演の写真がご覧いただけます。

